

2021年度スローガン

事業と活動を通じた社会貢献をひろげ、 SDGsの実現に貢献します

はじめに

2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の中、法人の新型コロナウイルス感染症対策本部を軸に感染対策を強化し、事業・経営活動をすすめて、増収増益の成果を上げることができました。訪問診療・訪問看護の利用者増を中心に地域密着型サービスの展開、介護と医療の一体化、ICT（情報通信技術）の積極的な活用、地域の新たなつながりづくり等、コロナ禍であっても対応できる事業と活動のしくみを確立してきました。

組合員活動は、コロナ禍の中、2020年2月下旬から中断を余儀なくされましたが、新型コロナ感染対策を周知する中で、7月に再開することができました。

2021年度も引き続き、新型コロナ感染対策を重視しながら、環境変化と地域ニーズに対応し、新たな事業展開と地域活動を計画的に推進します。利用者増をはかり、多くの方にサービスをご利用いただく

ことで、法人理念「その人らしく、気持ちよく生きる」を実現します。

私たちは、国連が2015年に決定し、2030年までに世界的な社会問題や環境問題の解決をめざすSDGs（持続可能な開発目標）—17の目標を学び、持続可能な社会の実現に貢献します。



ハロウィンパーティー

2021年度 通常総代会の公告

日時：2021年6月17日（木）
午後2時～3時30分
会場：イーグレひめじ
あいめっせホール（3階）

SDGs—17の目標

- ① 貧困をなくそう
- ② 飢餓をゼロに
- ③ すべての人に健康と福祉を
- ④ 質の高い教育をみんなに
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に
- ⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
- ⑧ 働きがいも、経済成長も
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう
- ⑪ 住み続けられるまちづくりを
- ⑫ つくる責任、つかう責任
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を
- ⑭ 海の豊かさを守ろう
- ⑮ 陸の豊かさを守ろう
- ⑯ 平和と公平をすべての人に
- ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう



SDGsバッジ

2021年度のすすめかた

1 地域包括ケアを推進し、“最期まで安心の在宅サービス”を提供します

- ①共立病院の建て替えリニューアル、環境変化に対応した介護事業の規模拡大を計画的にすすめます
- 共立病院の建て替えリニューアルは、2023年10月オープンをめざし、準備をすすめます。訪問診療を重視した地域包括ケア病院（48床）、介護との一体化を具体化します。利用者を増やし、採算の取れる病院づくりを実現します。場所は現在の敷地内、投資規模は概算で16億円+税を予定。
- 2021年度に福祉介護センターあぼしの新築移転をおこないます。
- 3か所目の福祉用具レンタルを網干地域に開設します。
- 看護小規模多機能の新規開設申請準備（2022年度）をはじめ、福祉介護センター花北の移転、小規模多機能ホームふるさとの増改築等を検討します。
- ②地域包括ケアを推進し、“介護と医療の一体化”を実現します
- 「認知症」「1人暮らし」「中重度者」を在宅で支える機能を強化し、在宅生活の限界点を高めます。“尊厳ある在宅看取り”を重視します。
- 法人及び全事業所が感染症や災害に対するBCP（事業継続計画）を作成し、危機管理を強化します。
- 行政や他団体との“顔の見える関係づくり”をさらに強めます。
- ③経営活動は、3つの柱（利用者増・コンプライアンス・質の向上）ですすすめます
- 2021年度の事業収益は●●億円（前年比●●%）、経常利益は●●万円（経常利益率3.0%以上）を実現します。
- 営業活動と広報活動を強化します。ICT（情報通信技術）の活用水準を引き上げます。
- 内部統制システム®を強化し、人事部のしくみづくりと環境整備を推進します。



ICTの活用でより良いサービス提供を目指します

2 人と人とのつながりと社会参加を大切にし、“くらしの安心ネットワーク”をひろげます

- ①SDGs（持続可能な開発目標）を学び、健康づくり、助け合い活動をひろげます
- 趣味や特性を生かした楽しい活動を計画します。フレイル・オーラルフレイル予防をひろげます。
- 子育て世代や子どもの参加は、子ども食堂や生協マルシェ、読み聞かせサークルなどの活動をひろげます。
- 「介護と医療の相談窓口」（仮称）ステッカーを作成し、地域の困りごとを助け合いや事業サービスにつなげます。
- 支部の世話人づくりとともに、地域で生活を支える「くらしの支えあいの会はなちゃん」の支援会員や事業所ボランティアを増やします。
- 事業利用委員会は、「キラリハート」の取り組み、事業所と組合員（地域）の協力を重視します。
- ②今日的な組合員活動の見直し、改善をはかります
- 新型コロナ感染予防対策を周知し、新しい生活様式を定着させます。
- 「組合員や地域住民から“要望”や“困った”が出されたら全力応援！」の活動スタイルを確立します。
- 「スマホの使い方班会」等を開催し、オンラインと対面活動を組み合わせた地域活動を創造します。
- 仲間ふやし1,000名、出資金ふやし3,000万円（純増1,500万円）、支部運営委員10名をめざします。全事業所が組合員利用率50%以上を実現し、組合員利用率のアップに取り組みます。
- ③くらしと平和を守る活動をすすめます
- 憲法・平和・人権を守る活動を推進します。
- 2021年1月22日、国連で発効された核兵器禁止条約を力に、日本が核兵器禁止条約に署名、批准する運動をすすめます。
- 原発ゼロの実現、再生可能エネルギーへの転換をめざします。
- 西播社保協の自治体キャラバンに積極的に参加します。



ご家族様とリモートで会話を楽しむ利用者様

3 “地域包括ケアを担う人づくり”をすすめます

- ①“キャリアアップ育成システム”の確立をはかります
- 法人として、キャリアアップ育成システムを確立し、全事業所でOJT（職場内研修）を通じた人材育成を推進します。
- “個人の成長”と“やりがい”を実感できる職場づくりを推進します。
- ハラスメントのない職場づくりを実現します。
- 職員の離職防止、定着率アップをはかります。
- ②人材の確保・育成、管理者・リーダーの育成を推進します
- 医師確保は最重点課題と位置づけ、複数名の着任をめざします。
- 2022年度新卒介護職員は、5名確保を目標とします。
- 管理者・リーダー育成研修は、キャリアアップ育成システムに沿った研修を具体化します。全職員を対象にした研修を企画します。
- マネジメントの基本であるPDCAサイクルの運用を重視します。
- ③組合員と職員がともに学び、協力をひろげます
- “姫路医療生協の人物像”－「理念の実現」「挑戦」「社会貢献」を学び、自分の言葉で語り、事業と活動に活かします。
- イチ押し班会メニューを充実させ、活用をひろげます。
- 「コムコム」、「いつでも元氣」の月刊誌を組合員・職員に普及し、事業と活動に活かします。
- 通信教育の活用をはかります。



ふれあいサロン

《語句の解説》

- ①地域包括ケア
誰もが住み慣れた地域で安心してくらし続けられるまちづくり。介護、医療、生活支援・介護予防、住まいの切れ目のない一体的なサービス提供をすすめます。
- ②地域包括ケア病床
急性期病院からの患者受け入れ、在宅復帰支援、在宅で施設での利用者の急性増悪時の受け入れ、リハビリの機能を併せ持った生活支援型病床
- ③看護小規模多機能
“訪問看護”に“通い”と“泊まり”のサービスを組み合わせた地域密着型の在宅サービス。中重度者の医療的ケアや尊厳ある在宅看取りニーズにお応えします。
- ④コンプライアンス活動
生協本部の介護事業部職員が、各介護事業所を訪問し、コンプライアンス（法令順守）の状況のチェックと評価をおこなう活動
- ⑤オーラルフレイル予防
口腔機能の低下を予防する取り組み。健康寿命の延伸に大きく寄与します。
- ⑥フードドライブ
食品ロスをなくすために、不要となった食品を必要な人に届ける取り組み
- ⑦キラリハート
利用者様に喜ばれたイチ押し事例を各事業所がまとめ、組合員・職員の確信にし、ひろげる取り組み
- ⑧内部統制システム
業務全般の適正さが確保できる仕組みをつくり、その仕組みに基づいて運営すること。

2020年度のまとめ

1 地域包括ケア^①の推進、“最期まで安心の在宅サービス”の提供

①新規事業を検討するとともに、利用者増をはかりました

○共立病院は6月から全床（40床）地域包括ケア病棟^②に転換し、“地域包括ケア病院”の役割を強化しました。建て替えリニューアルの準備を推進しました。

○看護小規模多機能^③すずかぜの増改築をすすめました。

○姫路市2021年度看護小規模多機能の開設申請は、土地確保の困難により見送りました。

②経営活動は3つの柱（利用者増・コンプライアンス・質の向上）ですすすめました

○2020年度決算は、事業収益●●億円（予算比●●%、前年比●●%）、経常利益●●万円（経常利益率●●%、予算比●●%）です。コロナ禍の中、感染対策を強化し利用者を増やし、増収増益の成果を上げることができました。

○法人として、計画的なコンプライアンス活動^④を実施し、コンプライアンス強化につなげました。

○すべての介護事業所に導入したICT（情報通信技術）を利活用しました。テレビ会議が定着しました。

2 多様性を認め合い、誰もが参加できる“くらしの安心ネットワーク”づくり

①健康づくり、助け合い活動

○コロナ禍の中、つながりを大切に創意工夫した活動をすすめました。ニュースひめじ紙上でフレイル・オーラルフレイル予防^⑤を発信しました。

○「生協マルシェ」や「ハロウィンパーティー」等の新たな多世代参加型の居場所づくりを企画し、開催しました。フードドライブ^⑥に継続して取り組みました。



生協マルシェ

○ひょうごまるごと健康チャレンジに取り組みました。また、禁煙ポスターコンクールには165作品が集まりました。

○事業利用委員会から「キラリハート^⑦集」を発行しました。

○サークル活動では20年間続いた



ウォーキング班会

「てくてく歴史散策」が幕を閉じました。

○仲間ふやしは●●名（純増●●名）、出資金ふやしは●●万円（純増●●万円）の到達です。事業所の組合員利用率アップが課題です。

②くらし・平和を守る活動をすすめました

○2020年度の原水爆禁止世界大会はオンラインで参加しました。

○くらし・平和委員会主催の「トリチウム学習会」を開催しました。

○西播社保協の自治体キャラバンに法人として参画しました。

3 “地域包括ケアを担う人づくり”の推進

①キャリアアップ育成システム確立に向けた取り組みをすすめました

○夏に管理者研修を開催し、秋に管理者フォローアップ研修を開催しました。今後、研修内容を全部門での「キャリアアップ育成システム」の確立につなげます。

②人財確保、管理者・リーダーの育成をすすめました

○コロナ禍の中、管理者研修や新入職員研修、新入職員基礎研修、全日本民医連総会方針学習会、通信教育等を創意工夫して推進しました。

○医師確保の課題では、共立病院に2名、共立歯科に1名の常勤医師が着任されました。

○介護人財確保は、2021年4月に新卒介護職員を4名採用しました。

③組合員と職員がともに学び、協同をひろげました

○10月に千葉大学の近藤克則教授を講師に、「withコロナ時代の健康なまちづくり」をテーマに地域包括ケアセミナーを開催しました。

○秋の生協強化月間は、事業利用委員会で論議し、組合員と職員が協同して推進しました。

○姫路医療生協のSDGsの取り組みを広報しました。

○通信教育は、組合員13名、職員75名が受講しました。